

平成三十年度の活動について

七鹿社会教育協会

◎はじめに

七鹿社会教育協会は、協会設立当初からその活動方針として①情報誌の発行、②研修旅行等の旅行、③社会教育功労者顕彰事業の三本の柱で運営してきました。この三本柱はこれまで、何とか細々ながら続けてきましたが、この後①・③は何とか継続できそうですが、②は、恐らくどの協会や団体でも同じだと思えますが、会員の高齢化とそれに伴う減少で、将来的な不安が先に立ってしまいます。それは兎も角三十年度の事業について報告します。

◎社会教育功労者表彰

当協会の功労者表彰は、要項の中に「すでに社会教育活動の功績により市・町長表彰以上の表彰を受けた者は除く」という文言を入れてあり、永年にわたり、地道に社会教育活動を実践しているが、一般的にはあまり知られていない文字通り「草の根的」な活動家を顕彰しようとするもので、七鹿地区の公民館及び社会教育団体等に推薦を依頼しております。

この表彰は当協会が平成二十一

年に創立されて以来二十九年までに二十九人の活動家を顕彰しており、三十年には三名の方が表彰されましたので現在の被表彰者は合計三十二名ということになります。



功労者表彰風景です。
おめでとうございます。

この表彰の狙いは、地道な活動を続けている社会教育活動家を発掘して皆さんに紹介することにより、本人の励みは勿論のこと、社会教育の底辺を広げ、一人でも多くの方に社会教育活動を実践していただきたいということです。現

に今年度の被表彰者三名の内二名は公民館活動を永年に亘って実践してきた方であり、一名は地域福祉推進員として福祉活動を実践されてきた方です。このような方々は本当に地味な活動を永年に亘って実践してきた方ですが、それだけでは市や町の表彰を受けるといふ晴れがましい機会に恵まれなかつた方だと思っております。そしてこのような方々は私たちが知らないだけで、探せばもつともつといらつしやるはずだと思つて実施しています。

◎研修旅行

今年の研修旅行は「輪島市門前地区を中心にした奥能登」へ出かけることにしました。

目玉は總持寺祖院の「禅問答」でしたが、近くにある「北前船資料館」を見学して郷土の歴史に触れる事も大切な事だということで、同館をコースに入れました。また、昼食は「ビュー・サンセット」で能登の魚を中心とした美味しい食事をするという計画で実施しました。

当日の日程は別掲の通りですが、

平成三十年九月十五日(土)午前九時から午後三時までの予定で出発しました。到着予定は午前十時だったのですが、予定より少々早く到着し、全員で總持寺祖院に入りました。

※別掲

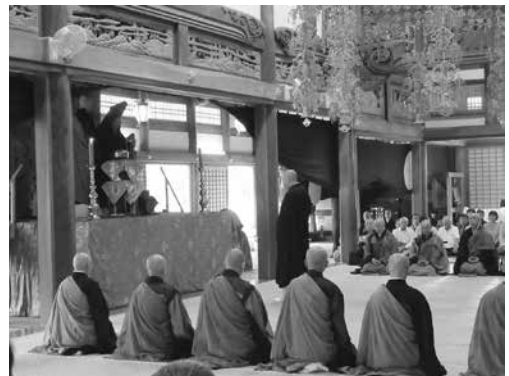
出発	9:00	七尾市役所前
	10:00	總持寺祖院到着 禅問答見学
出発	11:50	總持寺祖院前市営駐車場
昼食	12:00	ビューサンセット
出発	12:50	ビューサンセット駐車場
	13:00	北前船資料館見学
出発	13:30	北前船資料館駐車場
休憩	14:00	「増穂の浦道の駅」
到着	15:00	七尾市役所前

總持寺祖院では毎年九月十二日から十五日までの四日間「御征忌(ごしょうき)」という一年で最も大きな法要が行われ、その最終日に「対真上堂(たいしんじょうどう)」といって、修行僧が修行中の疑問を問う儀式が行われるわけです。今年は横浜市の大本山から遙々参加された貫首の江川禪師が疑問に答えてくれるということで、江川禪師は当年九十二歳という高齢にも拘わらず三年連続で参加されているということで、貫首が修行者の疑問に答えるという機会はそんなに多くないということです。皆大きな期待を持っていました。



總持寺の山門です。
まだこんな状態の建物がいくつかありました。

總持寺祖院は平成十九年の「能登半島地震」で甚大な被害を受け、現在も修復事業の最中で建物によつては使えないものもあるという状態でしたが、問答が行われる「太祖堂（たいそどう）」は修復が終わっており、三百畳を超える広間に五十名を超える僧侶と多くの参拝者が静かに控えていました。その中に我々七鹿社会教育協会のメンバー十四名がいつもとやや違う雰囲気戸惑いながら、少し緊張して着座しました。やがて江川禪師が多くの従者を従えて登場されました。總持寺祖院で修行する若い僧侶が順番に前へ出て、自分が修行中にいただいた疑問を解決すべく禪師に問いかけ、それに禪師が答えるという形式で問答が進んでいき、すべての修行僧が終わったところでこの日の問答は終了し



問答風景です。
こんな格好で問答をします。

ました。しかし、この問答は我々社会教育教会のメンバーには必ずしも好評とは言えるものではありませんでした。それは我々メンバーがいただいていた問答とは、僧侶同士が同等の立場で、お互いに丁々発止と意見を戦わせ、勝敗を決するというものでした。ところが今回見学した問答は、修行僧が上級者に教えを請うという形式の問答で、意見を戦わせる場面がなく、今ままでいっていたものと違うところからきているものだったからです。そういう意味では、問答には二通りあるということを知った見学で、大きな学習をしたと言えると思います。

總持寺祖院の問答を見学した後、時間の関係で当初の予定を入れ替えて、北前船資料館を訪問し

ました。資料館がある地区を「黒島」と言いますが、この地区には江戸時代に北前船の廻船問屋が何軒もあったそうです。もちろん現在廻船問屋は一軒もなく、その屋敷も昔を偲ばせるのは旧角海（かどみ）家住宅だけとなり、往時を偲ばせるものは資料館と旧角海家だけということになります。「北前船」というのは、北海道と関西地方を結んだ航路で、一航海で千両稼ぐことができると言われています。随ってその船主や廻船問屋の家もものすごく立派だったようです。また、資料館等のある黒島地区は「天領」と言われる徳川幕府直轄地であったため、加賀藩領よりも税が安かったことも、余計に豪華な生活ができたものと言われていています。そんなわけで、資料館や旧角海家を見たものは、いささか浮き世離れをした広大な屋敷や豪華な家具調度などで、昔の廻船問屋の絢爛豪華な生活ぶりが目に浮かんでくるようでした。しかし旧角海家は残念なことに平成十九年の能登半島地震によって大きな被害を受け、その後輪島市に寄贈され復原されたとはいえ、往時のままではないということでした。いずれにしろ、我々の感覚では想像すらできないような生活を送っていた人が同じ能登にいたということや食の場所「ビューサンセット」は

門前町の外れにある眺望に優れたホテルで、ここで一日夕陽の沈むのを待つのも良いな。と思わせるような雰囲気でした。昼食は能登の山海の珍味を満載した食事をいただき、視覚と味覚を満喫して帰路につきました。

今回の研修旅行では、会員の高齢化にいやという程気づかされました。当日になって体調不良で欠席する人が何人も出たこと。昼食時には、食欲がないと言って食べ残しをする人が何人も出たこと。往復の車に疲れて帰着後は座り込んでしまう人がいたこと。等がその現象ですが社会教育を振興するためには、何をどうすれば良いのか真剣に考えなければならぬということを感じました。

◎おわりに

最初にも記述しましたが、現在の状況からは七鹿社会教育協会の事業を今後いつまで続けることができるのか、非常に不安になっています。それは極端な言い方をすると七尾市・中能登町地域から社会教育の担い手がなくなってしまうのではないかと不安です。青少年の健全育成を支援するためにも、中高年齢者の生き甲斐探しに協力するためにも、社会教育者は欠かせない重要な存在だと思っ